

無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

目的 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

- 成果**
1. 無形文化財に関する調査研究
 - ア) 芸能分野：古典芸能（歌舞伎・文楽・三味線音楽ほか）に関する調査研究・日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究
 - イ) 工芸分野：古典膠製造に関する試用依頼と結果報告、及び絹糸製作技術調査（関春日神社、宝生能楽堂）



楽器製作・修理技術の調査（浅田三味線店 井坂重男氏）

2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
 - ア) 諸芸：講談及び落語（正本芝居噺）の実演記録を作成（一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席・林家正雀師2席）
 - イ) 平家：伝承曲及び復元曲の実演記録を作成（菊中央雄司氏ほかによる伝承曲1曲、復元曲3曲）
3. 研究調査に基づく成果の公表
 - ア) 特別座談会「能+1 絹と織—絹織物」（宝生能楽堂、4月9日）
 - イ) 総合研究会「無形文化財保存技術に関する報告—三味線を中心に—」（東京文化財研究所、10月3日）



特別座談会「能+1 絹と織—絹織物」での展示

- 論文**・菊池理予「友禅染と青花紙の関わりに関する一試論」『無形文化遺産研究報告』12 pp.23-39 17.3
- ・前原恵美「江戸祭礼と歌舞伎をめぐる三味線音楽演奏者の動向—常磐津節を中心に」『江戸総鎮守 神田明神論集』1 pp.73-100 17.5
- 報告**・前原恵美、橋本かおる「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告1」『無形文化遺産研究報告』12 pp.41-65 17.3
- 発表**・前原恵美「江島弁財天信仰と常磐津節演奏家—浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図〉を起点に一」東洋音楽学会 17.12.2

研究組織 ○飯島満、前原恵美、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、星野厚子（客員研究員）